



(左) 白井 俊充さん (右) 白井 陽さん

農業生産スフィーダさん

SFIDA ~スフィーダ~
農業で地域を元気にする挑戦

愛知県新城市を拠点に、2013年秋から活動をスタート。

「食べた人が笑顔になる」そんな野菜を作りたいという思いから農業を始め、年間約100品種以上の野菜を無化学肥料・無農薬で栽培されています。

城町グリルを運営する(株)柳橋総合開発とは今年で4年目のお付き合いです。

城町グリルにも野菜を卸してくださるスフィーダさんに、お話を伺ってきました！



(白井 陽さんに、スタッフでインタビューを行いました。)

--農業を始められたきっかけは何だったんですか？

まず、僕は大阪の大学に通っている時に、将来のことをあまり考えていなくて、いざ3,4年生になって周りが就活している中、自分は気持ちが乗り遅れてしまったんです。

このまま就職して、本当に自分がやりたいことを見つけて、やれるのか心配で、

もともと地元で農業に関わりたくなっていう漠然とした思いはあったので、地元で農業をやっていたおじいちゃんの野菜を都会で売れたらなという気持ちで、知り合いのウェブデザイナーの方にウェブを教えてもらっていました。

ただ、おじいちゃんもあまりたくさん野菜をつくっていた訳ではなかったし、地元の新城市でたくさん野菜を作られている方もいなかったんです。

これは自分で野菜を作るしかないと思って、畑を借りてスタートしたっていう感じです。

--どうして地元で農業をしたいと考えられていたんですか？

僕、地元好きなんですよね。

ただ、新城市は本当に田舎で、愛知県で唯一消滅可能性都市に選ばれてるくらい、人口が少ないし、生産人口も少ない。

大学の長期休みに地元に戻ってきてはいたんですけど、何か作っていたはずの畑が草ボーボーになっていて、他にも耕作放棄地がどんどん増えていたんです。

大学の4年間ですごい変わっていったのを目の当たりにしていて、誰かがどうにかしないと新城の農家がどうにかなってしまうという危機感から、地元で農業に関わりたくなっていう思いが膨らんでいました。

--実際に始められてみて、いかがでしたか？

お恥ずかしい話、この世界がどれだけしんどいかわらずに、しかも農業の知識もほぼなく始めたので、始めてからこれめちゃくちゃきつくなって気がつきました。

体力的に大変なのはもちろん、最初は作った野菜を売る場所がなくて、自分たちで納得できない値段でもどこかしらにおかないといけなかったのは、精神的にきつかったですね。

ただ、始めた農地が、もともと農地として機能しなくなった後の農地で、草取りが大変だったんですけど、7,8年やっていく中で、だいぶ草も無くなってきて、最初よりは楽にはなりました。

それに、柳橋総合開発さんのように、野菜を買ってくださる方も増えてきています。

柳橋総合開発さんは、初めての飲食店のお客さんだったんですけど、かなり自由にやらせてもらっています。

まだしっかり野菜作りをできていない時からお付き合いをさせていただいていて、僕らが農業を続けてこれたのは柳橋総合開発さんのおかげだなと思っています。



--大変な中でも農業を続けてこられたのはどうしてですか？

1つ目は、農業は大変だからこそ、誰かがやらないと新城の農家がどうにかなってしまうという危機感ですね。

入ってからよりそういう危機感を感じていて、それで今まで続けてきたのはあります。

2つ目は、親戚から農地を借りてやっていて、その人も困っていた中で、借りてくれてありがとうと言ってきていたんです。

だから、うまくいかないから返します、って簡単にはできないなっていう責任感が大きかったです。

--野菜づくりへのこだわりを教えてください。

無化学肥料・無農薬っていうのはもちろんあるんですけど、それ以外にも、抗酸化力にも注目しています。

抗酸化力っていうのは、人間が生きて酸化していく過程で処理しきれなくなった活性酸素が、細胞とかを壊してしまうんですけど、それを除去する力のことです。

その力が自分たちの野菜にどれくらいあるかを、3年前から検査機関に出して調べてもらっています。

普通なら、検査料高いし、手間がかかるからやらないんだけど、やっぱり僕たちは、食べた人が健康になる野菜を作りたいし、自分たちの野菜がどれだけの評価をされるかっていうところに作り手としてのモチベーションがあるから、そういった検査をやっています。

これからも、食べた人が健康になるような農業を続けていきたいです。

--ありがとうございました！

